

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：釧路湿原自然再生事業における広報活動の工夫		
水系/河川名：釧路川水系釧路川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：2510km ²	整備計画流量：780m ³ /s(W=1/40)	セグメント：2-2
事業：環境整備	事業開始年度	平成13年度
目標設定：定性的	段階	C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全、ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(高水敷)、掘削(低水路)、管理用道路の整備、その他		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、その他		

背景・課題、目標設定

<背景>

釧路湿原は、日本最大の湿原であり、そこに生育・生息する動植物や、湿原の中を蛇行する川のダイナミックな景観は、他に類を見ないすばらしいものである。しかし近年、湿原周辺での人間活動の影響により、自然環境の急激な変化があらわれ始めている。釧路湿原自然再生は、過去に損なわれた自然を積極的に取り戻そうと、2003年に行政機関や地域住民・NPOが参加して自然再生協議会が発足され、釧路湿原の保全・再生を効果的に行っていくため全体構想を作成して取組を進めている。

これまで、旧川復元や土砂流入対策などの事業を実施してきたが、自然再生についての人々の理解を広げ、効果的な情報発信と関心の拡大を図るための努力を惜しむことなく実施することが重要である。

<目標>

湿原生態系と持続的に関われる社会づくり～自然再生の普及

取り組み内容・対策例

- ・事業実施箇所のモニタリングの工夫として実施してきた広報活動
自然再生の取組を、地域住民や釧路湿原を訪れる観光客などへわかりやすく紹介するための広報活動。
- ・モニタリング目的で設置した自然観察路を活用した広報
- ・事業説明用の模型を活用した広報



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<モニタリング結果>

- ・自然観察路：一般開放した観察路から、復元した釧路川旧川の景観やヨシ群落・河畔林(ハルニレ等)が身近に観察でき大変好評。また、湿原の踏み荒らし防止にも繋がっている。
- ・事業説明用模型：事業効果を動的にとらえることができ、自然再生の関心拡大(普及)に繋がっている。

<今後に向けて>

- ・近年、河川に係る環境整備への関心と要望が高まっている。自然再生事業を進めるうえで、事業効果を様々な観点から評価することが必要である。
- ・積極的な広報活動により、事業に対する印象(効果)を市民等から直接得ることができ、公共事業の透明性確保の観点からも事業実施のモニタリングとして継続することが重要である。

自然観察路を活用した広報活動



備考

問い合わせ先 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所
電話番号 0154-38-8300